



新しい図書室へ —三菱京都病院の場合—

井上 智奈美

I. はじめに

当院は、2004年4月より新築工事を開始しました。2006年3月現在は、第1期工事が終了し、外来棟と病棟の3分の2が完成しました。病棟の残りと病院中央棟の工事である第2期工事は、2007年2月頃に完成予定です。

新病院は、同じ敷地内の既存の建物との間に建築されたため、工事期間は長期にわたりますが、引っ越しについては長距離の移動がなく、また住所の変更もありませんでした。

当院の新築移転にともない、新レイアウトの作成と図書室の引っ越しを経験したため、以下に報告します。

II. レイアウトの作成

(1) 場所・広さ

旧病院の図書室(旧図書室)は、1階の医局横、病院長室の向かい側にありました。新病院でも同じく医局横、病院長室エリア付近である南館3階管理棟に図書室の場所が確保されました。

新病院の図書室(新図書室)の広さは、設計途中に多少の変更がありましたが、旧図書室の約50㎡から約90㎡になりました。

(2) 席

旧図書室では閲覧席は1席しかなく、それ以外の席にはインターネット端末や院内業務端末が設置されていました。そのため、書架の50cmしかない隙間の床に座り込んで調べものをするスタッフもおり、なんだか気の毒でした。

そこでレイアウトを検討する際、新図書室では閲覧席の増設を第一目標にしました。総院長からの指示もあり、閲覧席は南の窓際に設置することになりました。3階南向きのため、暖かな日差しにあたる素敵な場所になるに違いないと思いましたが、実際のところは強すぎる日差しをどう避けるかに悩まされています。

新図書室では、個人閲覧席2席と大きなテーブルによる閲覧席4席を設けました(表1)。テーブル閲覧席の周囲には辞書などを集めた参考図書コーナーを設け、スペース的にゆとりをもって調べものができるようにしました(図1)。

(3) 司書スペース

旧図書室は病歴室と共用の部屋で、入口から奥の半分が図書室でした。司書スペースは旧図書室部分のさらに奥の窓際にあり、利用者にしてみれば一体どこからが図書室で、担当者がどこにいるのかがわかりにくかったように思われます。そのため、新図書室ではなるべくわかりやすい位置に配置することにしました。しかし、入口扉を開けてすぐに担当者がいるのも気まずい感じがし、また利用者よりコピー機などを入口扉付近に設置した方が利用しやすいという意見もあったため、司書スペースは部屋の中ほどになりました(図1)。利用者の様子が全て見えるわけでもなく、全く見えないわけでもないという微妙な位置です。

(4) 書架

設備は、基本的に新規購入せずに現状のものを利用することになっていました。そのため、旧図書室での現状物品を洗い出し、それぞれの大きさを測定し、実際に新図書室に収まるかど

席と院内業務用端末席が混在していましたが、新図書室では、それらを明確に分けることができました。さらに院内の備品をやりくりすることで、インターネット端末と画像処理端末を1台ずつ増やすことができました(表1)。

これらを入口付近に設置することでコピー機など多少騒音のするものを1カ所にまとめ、また閲覧や調べものをする場所を奥の窓際に配置することで、少しでも集中できるような環境を目指しました(図1)。

Ⅲ. 引っ越し

移動距離が短いとはいえ、荷物の量が膨大なため書籍の運搬作業は引っ越し業者に任せることになりました。

実際に運搬作業をする引っ越し業者は、書籍を入れる順番などがわかりません。そのため、旧図書室の書架から新図書室の書架への移動配置図を作成しました。引っ越し業者は、それをもとに書籍を運搬用のプラスチックケースに入れていきます。今回は、移動書架という新規の書架があったため比較的短期間で移動することができました。

まずは、移動書架に入れる予定の雑誌バックナンバーを、運搬用のプラスチックケースに順番どおりに入れます。棚1段分で2ケースになります。1番棚の1段目左側の場合、プラスチックケースには「1-1左」と書いたシールを貼ります。書籍を入れたそのプラスチックケースを新図書室へ運び、移動書架の1番棚の1段目左から入れます(図2)。こうすることで、書

籍が使用できなくなる時間(プラスチックケースに箱詰めされたままの時間)が少なくなり、引っ越し作業中にもかかわらず利用者のニーズに応えることができました。次に、旧図書室の雑誌バックナンバー棚を新図書室の単行本棚にするため、空いた書架を新図書室へ運び配置します。旧図書室の単行本を雑誌バックナンバーと同様にプラスチックケースに入れ、順次運び、新図書室の単行本棚へ入れます。新着雑誌棚も3本新しく追加したため、同様に移動することができました。

以上のように、旧図書室の書架から新図書室の書架への一段ごとの配置図を作って業者に指示したため、書籍の移動における司書の引っ越し作業は、現場の確認と引っ越し業者への指示だけでした。

あとはパソコンなどの端末の移動ですが、設置しているパソコンラックごと移動し、新図書室へ設置しました。設置後は司書が配線し、システム担当者がネットワークの開通を確認しました。

最後に司書機の移動です。引き出しだけ引き抜きそのまま機本体を移動しました。箱詰めの必要がなく、手軽に引っ越しすることができました。

図書室の引っ越し期間は合計で5日間でしたが、引っ越し作業中も通常業務が可能であったため、それほど支障にはなりませんでした。

Ⅳ. サイン

基本的には旧図書室と同じものを使用しています。新着雑誌棚には、雑誌タイトルをマグネットケースに入れたものを雑誌の後ろに表示し(図3)、単行本棚には書架横に分類名を同じくマグネットケースに入れて表示しています(図4)。また雑誌バックナンバー棚には、雑誌名のリストを差し替え可能なようにプラスチックケースに入れて表示しています(図5)。このプラスチックケースは両面テープで書架に貼付しています。

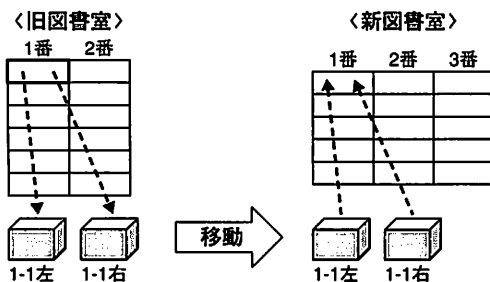


図2. 書籍の移動

書架の中でもシリーズものや雑誌の増刊号にはタイトル名をプリントしたものを軟質プラスチックケースに入れて見出しにしています (図

6)。軟質ケースだとぶつかっても割れにくく、利用者も負傷しにくいからです。

その他、各書架には「貸出手続きを必ずする」旨の注意書きを (図7)、新着雑誌棚には「これより以前のは雑誌バックナンバー棚にある」旨の注意書きを貼付しています (図8)。司書スペース横には、図書室の「利用あない」をマグネットポケットに入れて掲示しています (図9)。またコピー機前では、手持ちぶさたに

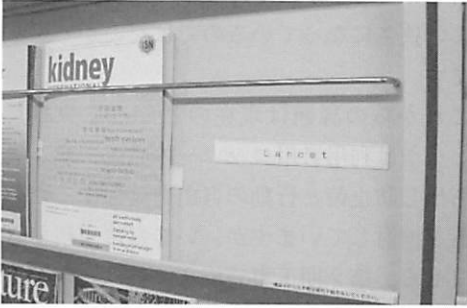


図 3.



図 4.

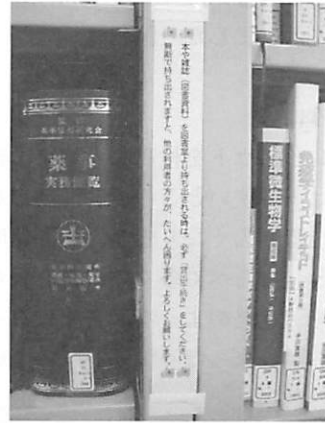


図 7.

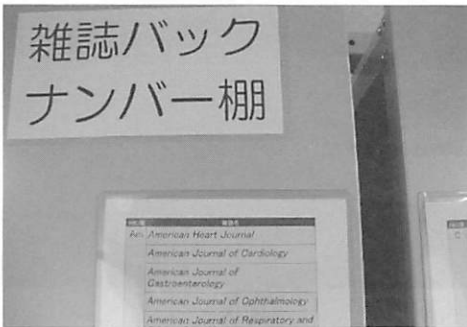


図 5.

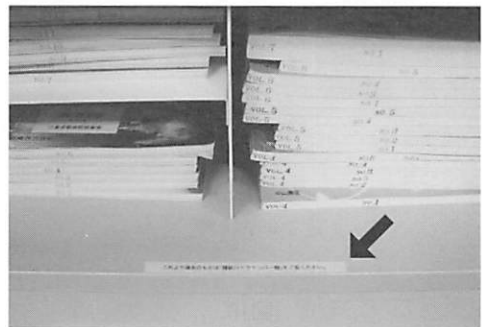


図 8.



図 6.



図 9.

なる時間が多いため、図書室からのお知らせなどを掲示しています(図10)。

新図書室になって追加したことは、図書室内の各コーナー(閲覧席やインターネットコーナー・貸出手続きコーナーなど)に、コーナー名を表示したこと(図11)、また初めての人でも声をかけてもらいやすくなるように、カウンターを明示したことです(図12)。それから、以前よりも端末が増えたため、それぞれの端末でできる内容を書いた「このパソコンでできること」を表示しました(図13)。

V. おわりに

何度もレイアウトを検討した結果、書架の間の通路幅が一番狭いところで約55cmになり、以前より5cmほど広くなりました。閲覧席を増設することと、なるべく多くの蔵書を入れようとしたことで、迷路のような図書室になってしまいました。隠れ家っぽくて安心するという意見

や、狭くて使いにくいという意見など、利用者によって感想は異なります。敷地面積が以前の約二倍になった新病院は、どこへ行っても広くて新しいのですが、そんな中で図書室は少し心地よい狭さになっているのではないかと考えています。

これからの課題は現在のところ二つあります。一つは利用者用ロッカーの設置です。無断持ち出し防止策と行動の自由を確保するために設置を検討していますが、いまだに実現できていません。第2期工事完成までには実現したいと思います。もう一つは蛍光灯の配置の見直しです。書架の間を確実に照らすような配置ができていないため、場所によっては暗くて見えにくい書架もあります。これをどう解決したらよいか全くわかりませんが、今のところ利用者からの苦情は寄せられていません。旧図書室と比較すると明るいからでしょうか。



図10.



図12.

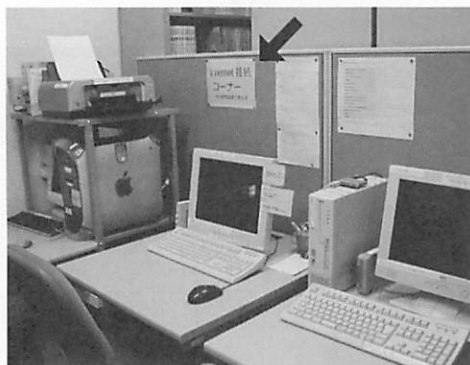


図11.

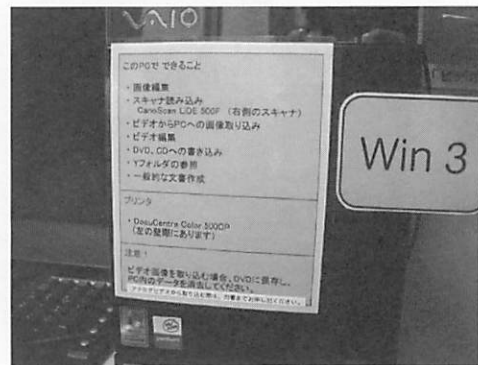


図13.